

山梨県における4パーミルイニシアチブの取り組み

果樹園の土壌に炭素を貯留することで二酸化炭素の濃度を低減する「^{フォー}4パーミルイニシアチブ」の取り組みにより、温暖化の抑制に寄与するとともに「環境に配慮した農産物」として新たにブランド化し、付加価値を向上させることで、県内への導入を推進していく。

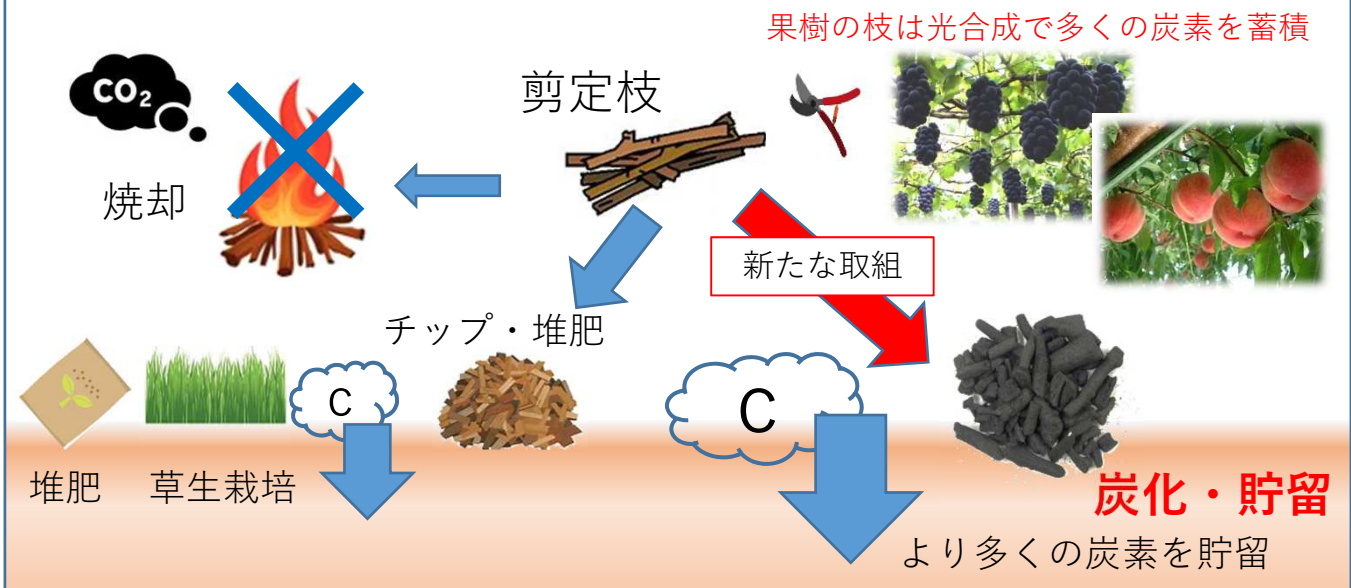
4パーミルイニシアチブとは

土壌中の炭素量を毎年4パーミル（4/1000）増やすことができれば、大気CO₂の増加量を相殺し、温暖化を防止できるという考え方に基づいた国際的な取り組み

- 2015年12月のC O P 2 1でフランス政府が提案
- 2020年12月現在、日本国を含む5 6 6の国や国際機関が参画
- 日本の都道府県では山梨県がはじめて参加（2020年4月）

果樹園と4パーミルイニシアチブ

果樹王国である山梨県の特徴を十分に活かし、
果樹園内で剪定枝を炭化・貯留して温暖化の抑制に寄与する



- 堆肥の施用や草生栽培によっても炭素を貯留することができる
- 炭にすることで、より多くの炭素を長期間、土壌中に貯留することが可能

具体的な取組内容

試験研究

- 炭化の方法
- 煙の発生量
- 炭素の貯留量
- 土壌改良効果
- 生育への影響

現地実証

- 実用段階での課題把握
- 地域への普及加速化

ブランド化

- C O₂削減の評価と認証制度創設
- 新たな付加価値によるブランド化

